

# MAENAN SAH Journal Vol.13

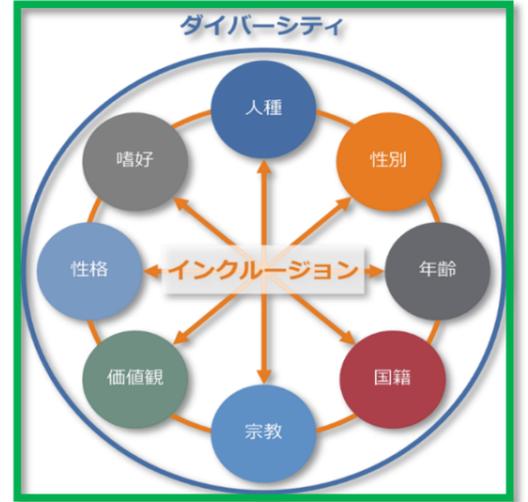
～『自分で考え、判断し、行動できる生徒の育成』をめざして～ Sep. 21st, 2023

## ★多様性社会（Diversity）を生きていくために必要な考え方とは？★



『多様性（Diversity：ダイバーシティ）』というコトバを、ここ数年でよく耳にするようになりました。障がいのある人や高齢者の雇用、女性の活躍促進、LGBTQなどの性的マイノリティなど、社会を取り巻く多様性における課題への取り組みが世界中で推進されています。当然、多様性社会とは、『どんな属性・特性・背景をもった人も、誰もが自分らしく生きられる社会』を意味しています

では、日本は多様性社会にどれだけ近づいているのでしょうか？これからの社会では、特定の属性に限定せずに多様な人材と共に協働していく必要があります。そして『誰もが自分らしく生きることができる』ということを確認合う必要があるわけです。



一方、『Inclusion（インクルージョン）』は『受容すること』を指します。『include（含む・包括する）』という動詞を知っていますね。その名詞形です。『同じ社会や同じ環境の中で、多様な人間が存在すること』を『当たり前』と考え、『一人ひとりがお互いを認め合いながら一体化を目指す』という『社会』や『組織』、『環境』のあり方を示しています。よって、『Diversity&Inclusion』とは、『個々の「違い」を受け入れ、認め合い、活かしていくこと』を意味しています。今後、『Inclusion』の部分が増えつつ大切になっていきます。



## ★『多数決』の是非 ～『民主主義』の落とし穴～★



ものごとを決めるときに、私たちがつい採用してしまう『多数決』という方法は『Diversity&Inclusion』を目指すうえで『ふさわしい決め方』なのでしょうか？

例えば、文化祭のクラス企画を決める際には、たくさんの「アイデア」が出されます。所属する一人ひとりの生徒の価値観は多様であり、クラスの意思を問う方法として「多数決」が用いられるわけですが、この意思決定で行っているのは『少数派の意見の切り捨て』になる可能性があります。また、『多数派の意見には従うべきだ！』という主張は、少数派の意見を抑圧したまま進行することになります。『クラスにモヤモヤが蔓延した状態』のまま、企画を前進させてしまっていることは、運営上の大きなリスクとなるはず。もちろん、みんなが『どの案でもOK』と言っている選択肢からの選択なら構いませんが。



クラス企画における『答え』とは、客観的な基準による『正解』ではありません。『否決されてしまった側の人々の意見も反映させ、クラス全員が「当事者意識」を持ち、「これが私たちにとっての答えである」と合意できることが、何よりも重要になります。』この『合意』に到達するまでに、何が必要なのでしょうか？

## ★『納得解』を生み出すためのプロセスとは？～『最上位目標』への合意形成と『テニス型対話』～★

それでは、『納得解（クラス全員が納得できる答え）』を生み出すにはどうすればよいのでしょうか？その方法として『対話を通じた合意点の模索』が有効だと言われています。もちろん、時間がかかる場合もあります。しかし、『ここは認められるよね』という合意点を見つけることはできるはず。そこから少しずつ、『最上位目標』に向かってレベルを上げ、議論を建設的に進めるのです。そうすると、その後の納得度の高さがぜんぜん違います。『みんなが「一歩ずつ合意しながら議論を進めていく』、そのコツさえつかんでしまえば、みんなが『当事者』として『一体感』を感じながら、進んでいけるのです。

例えば、『A案を採用したら誰かがすごく傷つく、B案を採用したらまた違う人たちが傷つく』という状況ではどうすればいいのでしょうか？どちらを選んでも傷つく人間がいるとすれば、『これはやめよう。誰も傷つけないC案を考えよう』と、さらに対話するのです。もはやこれは『テニスのラリー』のようなものです（卓球でもいいですが笑）。これを繰り返していれば、より上位にある『みんなが楽しいほうがいい』で合意ができるのです。

どんなに『対立』が起きても『もう1回みんながOKなものを考え直そう』という考え方を身につければ、いろいろなトラブルが消えるはず。その『テニス型対話を通じた合意形成の経験』を、学校でたくさん経験してほしいのです。まずは、『文化祭の最上位目標』はなんなのか、そこから『対話で合意』していくことが大切です！『民主的』で、『Inclusive（インクルーシブ：形容詞形）』で、『誰も置き去りにしないこと』をめざすための『対話力』を経験してみませんか？ 文責：星野 亨（教頭）



### ★校長より★

多様性社会、多数決の是非、合意形成、「教頭先生今号は内容が濃すぎ～！」と思わず声に出してしまった。話題一つひとつでも1号分を占める事のできる重い内容ですね。私はすぐにタレントのミッツマングローブさんがCMの中で「Diversity」と言っている姿が浮かびました。多数決の原理は誰もが一度は従った事があるのではないのでしょうか。でもそれが少数派意見の切り捨てや抑圧に繋がるとすれば・・・前にもお話ししましたが、OECDの目指す方向性には、「自律」「対話」「創造」があります。誰もが納得できる答えを探し、対立が起きたらもう一度皆が納得できる答えを探し、これができたらすごくないですか前南生諸君。

校長 関根 正弘